校 長 室 だ よ り（No.12）

令和４年７月15日
丹波市立黒井小学校長
谷口　千尋

安全で安心できる環境づくり

あと数日で今年度の１学期が終わります。コロナ禍は続きましたが、計画した教育課程や例年の学校行事をほぼ実施することができました。黒井小学校 PTA においても地区懇談会や学年活動、リサイクル活動など例年の取組が実施できました。

また、今学期は、大きな事故や怪我もなく、特に登下校においては、多くの方の見守りと交通指導で安全に通学できましたことを本当にありがたく思います。子どもたちの安全は、学校づくりの基本と考えています。

子どもの安全・安心について、以前、丹波市にも度々お越しいただいたことのある新井　肇先生（元　兵庫教育大学）が、その手がかりを書かれています。

徳島県海部町（現・海陽町）は自殺の希少地域であるそうです。４年間にわたる調査の結果、その因子として次の５点があげられるそうです。

１　多様性を重視し、均質化に走り過ぎない

特に、学校においては、集団行動を基盤とするため均質であり平等であることが求められます。今、問題になっている「校則」の問題もそのひとつです。「多様性」を認め合う雰囲気の中でいろいろな考え方や意見が自由に出し合えるようにしていくことが大切です。

２　ひとの評価は長い目で、多角的に

学校での評価においても、「得点」だけにとらわれず、様々な角度から様々なひとがかかわることが大切です。子どもたちの興味のあること、夢中になれることを用意することも大切です。自分のやろうとすることが認められ、応援されていると感じることで、学校は、安心できる居場所になります。本校に、カブトムシの蛹を手製の繭で羽化させた児童がいました。丹波新聞にも取り上げていただき他人から認められるよい経験ができたと感じています。

３　「自己信頼感」を育む

主体的に取り組む「共同の活動」で他人の役に立ち、他人から認められることで「自己信頼感」が育つと言われています。縦割り班活動や縦割り班掃除などの異学年交流では、これを育む絶好の機会です。先日の講演会でも、引きこもり、不登校の生徒と就学前の子どもとのかかわりが、心を開く機会になったことを聞きました。主体的・自治的な活動はとても大切です。

４　緩やかにつながる

最初の項目とも関連しますが、「みんな仲良く」を強調しすぎることで、異質とみなされた場合に排除の対象となりやすくなります。程よい距離の結びつき、自然な関係づくりが大切になってきます。

５　適切な援助要求を促す

適切に依存できる関係づくり、ネットワークづくりが大切です。適切に甘えたり、弱音を吐いたりする「援助希求」が出せる関係が、有るか無いかで、子どもたちの学校での安心感が変わってきます。いじめアンケートや SC のカウンセリングの機会、保健室などでの健康相談などを大切にしたいと考えます。